

## 令和4年度の活動振り返り

### 栄村コミュニティスクール小学校部会

#### はじめに

2020年度実施の学習指導要領では、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るの目標を学校と社会が共有し、子どもに未来の作り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現が謳われています。その実現に向けては、学校と地域の連携・協働を一層推進していくことが必要となってくると思われます。

学校と地域の連携・協働にかかわって、栄村においては、今年度より栄村コミュニティスクールに、小学校部会、中学校部会がそれぞれ設立され、より児童・生徒の動きやニーズに応じた活動を推進していくことになりました。また、近年のコロナ禍により中断されている活動も多く、その中でも行える工夫をしたり、新たな活動を模索したりする必要性が生じている状況にあります。

栄小学校は全校児童45名と児童数の減少が進み、児童が少ない中でどのようによりよい教育を成立させていくかが課題となっています。その中で、村では小中統合問題にかかわり地域の皆様の意見を聞くワークショップ「みんなで学校を創ろう」を随時開催しています。そこでは、少人数は一人一人に手厚い教育がなされるよさがある一方、人数が少ない中で人間関係が固定化している、多様な見方や考え方に触れにくいのではないかとといった心配の声が聞かれます。

栄小学校は村に唯一の小学校であり、地域の皆様の期待は大きく、我が村の学校という意識が強く感じられます。そのため、地域の皆様の助力は得やすく、学校と地域の連携・協働を進めていくにはよい環境にあるといえます。ただ、「学校に協力したいがどうしたらいいかわからない」といった声もあり、地域の力を学校にどうつないでいくかが課題となっています。また、児童数が少ないということは、フットワーク軽く動きやすいとの機動力や、施設面では空きスペースがあって外部を受け入れやすいということにつながり、地域と学校の協働・連携において生かしていきたい側面も見えてきます。そういった諸条件を効果的に位置づけていくことで、児童数が少ない中においても、地域の力を取り込むことによって先述の「人数が少ない中で人間関係が固定化している、多様な見方や考え方に触れにくい」との課題は解決の方向が見えてくるのではないかと考えます。児童数は45人であっても、地域に目を向ければ1,700人程の村民の皆様がいて、児童が出会い、かかわれる貴重な人材がそこにはいます。

ここでは、村の学校への期待がある一方、児童数減との課題を抱える本校において、「地域とつながり、多様なかわりを生み出すにはどうしたらよいか」との問いに向けた栄村コミュニティスクール小学校部会の活動を振り返ります。特に、コミュニティスクールの運営、共学び、共遊びの活動、ふるさと学習の取組を振り返ります。

#### 1 コミュニティスクールの運営

今年度より設立された栄村コミュニティスクール小学校部会において、メンバーによる熟議により目標、理念を共有し、グランドデザイン作成、交流スペース設置といった準備を進めながら諸活動推進につなぎました。グランドデザイン等の情報は地域にも公開し、コミュニティスクールの運営指針、活動の見通しを広く伝達、共有することを心がけました。さらに活動の様子は随時学校ホームページに掲載し、情報の発信に努めました。

##### (1) 栄村コミュニティスクール小学校部会発足

昨年度まで栄村コミュニティスクール(以下 村CS)として小中一本であった組織に、より児童・生徒の動きや、小学校、中学校それぞれのニーズに応じた活動を実施していくことをめざし、小学校部会、中学校部会が設立されました。

村CSの人は昨年度から始めました。その結果、地域コーディネーターを前村公民館長、学校支援ボランティア代表を村育成協議会会長、さかえスポーツクラブ会長の両名にお願いすることになりました。それぞれ昨年度の栄村コミュニティスクール、栄村青少年育成協議会等で共に活動し、つながりができた方々で、学校に協力したいとの意欲をもつ地域の皆様です。依頼時には、「こんなことをしてみたい」と前向きな言葉が聞かれ、進んで引き受けていただきました。

年度当初、村教育委員会より正式に委嘱があり、地域コーディネーター、学校支援ボランティア代表、校長、教頭から成る栄村CS小学校部会が発足する運びとなりました。第1回の村CS小学校部会を参観日の4月22日に開催し、その後も参観日に併せて年5回の部会を実施しました。参観日で授業を見てもらい、子どもの様子を話題にしながら村CSの活動を振り返り、その後の活動の方向を検討するようになりました。

##### (2) 村CS小学校部会における熟議

組織内の連携・協働を成立させるには、共有できる目標や理念が必要不可欠です。年度当初、第1回の村CS小学校部会では、熟議により目標、理念の共有を図りました。

配布資料の「栄小の子どもたちへの願い」をあえて空欄にし、子どもの成長や学校と地域の関係性への願いについてメンバーで協議しました。部会メンバーそれぞれの思いを出し合ったところ、地域のよさや課題、これまでのコミュニティスクールの活動について等話題は多岐にわたりながら、最終的には村の子どもたちへの願いに収束し、「栄村のよさを見つけてほしい」「栄村の自然の中で思い切り活動してほしい」「栄村の人とつながって学んでほしい」との願いが空欄に設定されました。

熟議の末、部会メンバー全員で村CSの活動理念を生み出すことができたことは、大きな成果でした。

##### (3) 村CS小学校部会の形づくり

第1回の村CS小学校部会を終え、活動の準備に入りました。具体的には運営計画とグランドデザイン作成、活動スペースの設置です。このようにソフトとハード、両面から準備を進めました。

運営計画には、活動方針、主な活動、推進日程等を記載し、部会活動の大きな枠を示しました。グランドデザインは運営計画をより焦点化し、活動目標と年間の活動の見通しにより、一目でわかるようにしました。グランドデザインは地域に配布し、学校と地域での共有を図りました。また、学校の一区域に、「コミュニティスペース」を設置しました。コミュニティスペースにはベンチを置いて、児童と地域の皆様の憩いの場にしようと考えました。後日児童が図工の時間の作品を掲示してくれて、見た目にも温かい空間となりました。後に詳しく紹介しますが、花壇づくりの活動の後などに、休憩しながら交流を深める児童と地域の皆様の姿が見られる場所となりました。

このようにソフト、ハード両面からの取組で、年間の見通しを立て、活動拠点を設定することができました。



【村CS小学校部会グランドデザイン



【コミュニティスペースにおける交流】

#### (4) ホームページでの情報発信

学校ホームページにCSコーナーを特設し、村CS小学校部会の運営計画やランドデザインを公開しました。また、CSの活動について随時掲載・更新し、情報発信に努めました。地域の皆様の中には、ホームページを閲覧していることを伝えてくれる方もいて、地域等外部への情報発信として学校ホームページを有効活用しました。



【学校HP CSコーナー】

#### 【学校HP CS活動紹介】

#### (5) 村ワークショップ「みんなで学校を創ろう」との連携

村では小中の学校再編へ向けて、地域の皆様の声を反映させるべくワークショップを随時開催しています。そこでは、こんな学校にしたい、こんな授業になるといいといった地域の皆様の率直な声を聞くことができます。その中でも、学校と地域の連携を深めたいとの願いは強く、そんな声や思いを村CS小学校部会の活動にも取り入れるようにしました。

第3回のワークショップでは、スローガンについての討議の中で、「栄小学校でやっている花壇づくりで村の子どもと大人がいっしょに活動するよさをひしと感じた。これからもいっしょに学ぼうやいっしょに遊ぼうで、子どもといっしょに学び合ったり遊んだりすることができる。このようにいっしょに学ぶことを広げていくことが村の教育に大切ではないか」といった地域の皆様の発言がありました。その方は、「孫が学校にいるわけでない私たちが来ていいものか…」と遠慮しながらも、本校CSの活動に夫妻で参加してもらっています。



【村ワークショップ】

このように、CSの活動にかかわりながら、学校教育に参画の意識を高め、さらには学校を応援してくれるサポーターになってくれる方の存在がありがたいです。村CSは村ワークショップでの地域の思いを受け止める、地域の皆様にはCSの活動から感じたことや学んだことを学校再編の討議に反映してもらう、そんな村CSとワークショップのつながりがありました。

以上見てきたように、地域と学校との接点の組織となる村CS小学校部会では、熟議によりメンバーの願いや思いを汲み上げ、理念や目標の共有をしました。これは協力する、協力を依頼するとの関係を超えて、地域と学校とが対等・並立の関係性で活動していく第一歩であり、めざすところである「連携・協働」へつながるものでした。

また、ランドデザイン作成やコミュニティスペース設置、ホームページでの情報発信など活動や動きを可視化、具体化していくことで、かかわる人の情報共有や活動拠点を形づくることができました。

#### 2 共に学ぶ、共に遊ぶ

村CS小学校部会では、地域に児童と共に花壇づくりをする住民、授業で共に学んだり、休み時間に共に遊んだりする住民を募り、共学び、共遊びの活動を実施しました。これは地域の力を学校に取り込み、児童が地域の皆様とともに活動しながら、多様な

かわりを生み出そうとの目的で実施した事業です。

#### (1) 花壇クラブの活動

地域交流として、地元老人クラブと児童が大根を栽培し、調理して食する交流活動を以前より行っていました。昨今のコロナ禍により自粛となっていました。この大根栽培の交流は特に「調理をして食べる」ところが感染リスクが高く、ネックになっていました。

大根栽培に代わる交流については村CS小学校部会でも話題となりました。いつ明けたともわからないコロナ禍に、今できる活動を実施していくことが必要との検討がなされ、飲食を伴わなくとも活動できる花の栽培活動が計画されました。地域の皆様に「花壇クラブ員」を募り、児童とともに学校花壇をつくって交流してもらおうことを考え、地域全戸に案内をしたところ、13名の応募があり、花壇クラブが発足しました。

花壇クラブは6月10日、1・2年生児童と共に学校前花壇において、花の苗植えを行いました。声をかけ合って、苗を渡し合って植え付けを行う児童とクラブ員の姿があり、かわりが深まる温かい時間となりました。花の苗植えの後は、新設した「コミュニティスペース」で休憩しながら苗植えを振り返りました。時間の終わりには名前を呼び合い、名残惜しそうに再会を願う児童とクラブ員の姿がありました。花壇は後日「コミュニティ花壇」と名づけ、児童と地域の方々共同による花壇づくりを通して、豊かな情操教育につなぎ、児童と地域の方々の交流が深まる機会にしていきたいと願いました。

7月20日にはコミュニティ花壇において、夏休み前の花壇整備として草取りを行いました。児童とクラブ員がグループに分かれ、名前を呼び合い、会話をしながら草取りを行いました。暑い中でしたが、仲間と共に楽しく作業ができたようでした。草取りの後は、コミュニティスペースで休憩しながら楽しく会話をしました。児童、花壇クラブ員双方から「楽しかった」との声が聞かれ、よい交流草取りとなりました。

10月28日には花壇の写生会を実施し、児童とクラブ員が共に花の絵を描きました。互いの絵を見合い、会話をしながら写生をする児童とクラブ員の姿がありました。児童からは、「大人といっしょに描くのは楽しい」「地域の人と描いてすごくうれしかった」との喜びの声が聞かれました。クラブ員からは、「久々に絵を描いて楽しかった」「日常と違って楽しい。子どもたちは一生懸命描いていてえらい」といった声がありました。

1・2年生児童と花壇クラブ員の作品は校内に掲示しました。互いに育てた花と共に児童とクラブ員が描かれていたり、感謝のメッセージが添えられていたり、温かな気持ちになる作品ばかりでした。花壇づくりでの互いのかかわりの充実が見て取れました。

共同の活動は継続し、手渡し葉書による交流を実施し、まとめの会等を計画しています。

#### (2) 「いっしょに学ぼう」の活動

花壇クラブ員との会話の中で、「学校ではプログラミング教育が始まっていて、どんなことをするのか興味がある」といったものが聞かれました。また、英語を学び直してみたい、



【花壇づくり】



【活動後の交流】



【写生会】



【写生会での児童作品】

ポッチャは子どもも大人も一緒に楽しめる、地域に習字の達人がいて教えてもらえるといった声も聞かれ、子どもといっしょに授業で学んでみるのは楽しそうだと話になったことがありました。

全校児童45名の栄小学校では、ひと学年の人数は7、8人で、最も少ない学年は4人。保育園から中学校まで同じメンバーで学び、人間関係の固定化や多様な見方や考え方に触れにくいといったことが心配されています。これは先述の村ワークショップ「みんなで学校を創ろう」においても地域の皆様から心配の声として挙がったことです。一方、人数の少なさは教室スペースが広く使えることや小回りの利く機動力につながり、外部の方を受け入れやすいということもできます。

学びへの関心がある地域の皆様、外部の方を受け入れやすい環境、この二つを掛け合わせ、共に学ぶ場をつくることで、児童は地域の皆様とともに多様な関係の中で学ぶことができるのではないのでしょうか。また、地域の皆様にとっては学びを楽しみ、生涯学習へつなぐことができるのではないのでしょうか。そんな願いから「いっしょに学ぼう」を実施するに至りました。地域に参加者を募り、英語、プログラミング、習字、ポッチャの各授業において、児童と地域の皆様の共学の場を設定しました。

英語は2回の授業を行いました。授業会場の6年教室では、児童と地域の皆様が英語のゲームやコミュニケーション活動を共に楽しむ姿が見られました。授業の感想として児童は、「地域の人とゲームや話をして楽しかった」「地域の人と楽しくI ate～を学べた」と話していました。地域の皆様からは、「英語は苦手なのでチャレンジした。久しぶりに英語を聞いた話したりして、6年生と楽しく学習ができた」「新鮮な気持ちになって、本当に楽しかった。子どもたちの英語を聞きとる力がすごいと思った」との声が聞かれました。「いっしょに学ぼう・英語」では、文字通りいっしょに、楽しく英語を学ぶ児童と地域の皆様の姿が見られました。

プログラミングの授業は3回行いました。授業会場の4年教室で、児童と地域の皆様が、プログラミングでキャラクターを動かしたり、ゲームをつくったりしました。授業の感想として児童は、「大人も楽しそうにプログラミングをやっていたよかった」、地域の皆様からは、「3回やって、プログラミングのコツがつかめてきた。馴染んできて、子どもといっしょにやるのは楽しい」との言葉が聞かれました。「いっしょに学ぼう・プログラミング」では、刺激し合いながらプログラミングを学ぶ児童と地域の皆様の姿が見られました。

習字は、地域の書家を講師に迎え、2回の授業を行いました。授業会場の2階オープンスペースには、児童と地域の皆様が共に題字「人」に向き合い、筆運びに没頭する姿が見られました。講師からは、「習字は姿勢が大事ですよ」とのアドバイスがあり、児童からは地域の人と共に学んだことに、「右払いがうまくて、見本になった」「いっしょに話しながらやって楽しかった」との感想が聞かれました。地域の皆様からは、「久しぶりの授業で楽しかった。子どもたちと話しながらできたのもよかった」「筆を持ったのは何十年ぶり。楽しかった」といった声がありました。

ポッチャは、北信教育事務所生涯学習課指導主事を講師に3回実施しました。授業会場の3階オープンスペースには、児童



【いっしょに学ぼう・英語】



【いっしょに学ぼう・プログラミング】



【いっしょに学ぼう・習字】



【いっしょに学ぼう・ポッチャ】

と地域の皆様が喜び合ったり残念がったり、アドバイスし合ったりする姿が見られました。「うまくできないとき、どうやればうまくいくのか工夫しながらやるのが楽しかった。地域の人と協力できて、友達になれた」といった児童の声がありました。地域の皆様からは、「子どもたちといっしょに一生懸命できて楽しかった。夢中になれた」といった声が聞かれました。

どの授業においても児童と地域の皆様がかわり合ったり、刺激し合ったりしながら共に学ぶ姿が生まれていました。

### (3) 英語クラブ、ポッチャクラブ設立へ

「いっしょに学ぼう」を通して明らかになってきたことが、児童と地域の皆様の共同の学びにおいて、コミュニケーション活動が含まれる授業で互いがより充実感を得ているということでした。英語でインタビュー活動やゲームをしたり、ポッチャでチームごと作戦を立てたり、応援し合ったり、コミュニケーションを図ることに喜びを感じる児童や地域の皆様の姿がありました。

英語では、「楽しい時間を過ごすことができました。6年生の皆さんの学びの姿も素晴らしく、地域のおばちゃんを受け入れてくださったことに感謝します。またのご縁を。(後略)」「2回とも知らなかった単語を理解することができました(ナスがeggplantとか)。児童の皆さんと交流しながらの授業がとても楽しく、時間が短く感じられました。(中略)また機会がありましたら参加させてください」といった地域の皆様の声がありました。児童からは、「いつもはクラスのみなどとやっているけど、地域の方といっしょにやるととても楽しかったです。」「地域の人とゲームなどいろいろできてよかったです。またできたらいいなと思いました。」「今日、地域の方とやって、楽しみながら『I ate』をできたのでよかったです」といった感想がありました。互いにかかわりながら、学ぶことを楽しむ児童と地域の皆様の姿があり、「また機会がありましたら」「またのご縁を」「またできたらいいな」と今後を見送った言葉も多々見られました。

ポッチャにおいても、また共に活動したいという声は多く、希望の多かった英語、ポッチャはクラブを発足させるに至りました。両クラブにおける児童と地域の皆様の共学の中で、多様なかわりが生まれ、学ぶ楽しさを味わうことがさらに深まることを願いました。

12月に3年生と英語クラブ員の授業、3・4年生とポッチャクラブ員の授業をそれぞれ実施し、1月からは他学年へ広げて授業を展開しています。

### (4) 「いっしょに遊ぼう」の活動

いっしょに学ぼうや花壇クラブでは、同じ学習者・活動者として、対等・並列な関係でかわる児童と地域の皆様の姿が生まれました。児童は多様なかわりの中で学び、活動し、地域の皆様は児童との学びや活動を楽しむ様子がありました。これを自由な遊びに広げ、学校の休み時間を児童と地域の皆様が共に遊び、さらにかかわりを深める交流の機会にしたいと考え、地域に「いっしょに遊ぼうタイム」で児童と交流する会員を募りました。日課の工夫をし、いっしょに遊ぼうタイムに35分間の時間を創出しました。

第1回は10月19日に開催しました。「コマ回し」「輪車」「スケートボード」「花札」「サッカー」の中から選択し、共に楽しむ児童と地域の皆様の姿がありました。スケートボードで遊んだ1年生は、「スケートボードは初めてやった。蹴って進むのがすごく楽しい」6年生は、「おもしろかった。地域の方に教えてもらえてよかった」と話していました。花札の6年生は、「いつもおばあちゃんとやっているけど、今日は地域の方や友達とできて楽しかった」と教えてくれまし



【いっしょに遊ぼう・コマ回し】



【いっしょに遊ぼう・スケートボード】

た。地域の皆様からは一様に、「楽しかった」との声が聞かれ、「コマ回しがうまい子がいてびっくりした」といった感想もありました。

児童も地域の皆様も、楽しく遊びながらかわりを深める様子がありました。第2回は新型コロナの感染警戒レベルが上がり中止となりましたが、第3回は12月に実施でき、1月以降も毎月開催しています。共に楽しい時間を過ごすことでかわりが深まる、そんな視点を得ることができました。

以上見てきたように、小規模校において懸念される、人間関係の固定化、多様な見方・考え方に触れにくいといった課題解決のために、地域の力を学校に取り込み、地域の皆様に同じ学習者・活動者として児童とかかわってもらったことで、児童には多様なかわりの中での学びや活動が生まれました。地域の皆様には児童との学習や活動を楽しみながら、学校教育への参画の意識や生涯学習への関心を高めていただいている姿が見られました。

### 3 ふるさと学習

学校では地域に学び、地域に還すふるさと学習の充実をグランドデザインに掲げ、力を入れて取り組んでいます。学校と地域の協働・連携について、村CS小学校部会の活動に加え、ふるさと学習においては、児童の主体的な活動の中で地域の人とつながり、地域の自然や文化を学ぶ児童の姿が生まれました。

#### (1) 4年生 ちまきづくり

4年生は5年生とともに、もち米づくりに挑戦しました。その中で児童が興味をもったのが地域の伝統食「ちまき」です。ちまきについてインターネットや図書を調べたり、保護者にインタビューをしたりして出会ったのが、ちまきを包む笹の存在でした。保存、抗菌の役割を果たす笹の大切さを知り、笹探しでは情報を集めながら豊富に生えている場所を発見しました。採ってきた笹を、冷凍して保存することにしたところ、方法をインターネットで調べてきた児童がいて、その情報をもとに作業を行いました。笹を茹でたり水分を拭き取ったりする作業を分担して行い、冷凍庫に入れるところまで進めることができました。途中で困ることがあっても投げ出さず、試したり友だちに相談したりして乗り越えようとする姿がありました。伝統食のちまきをきっかけに、地域の素材にかかわる児童の姿が見られました。



【笹の保存作業】

ちまきづくりの元になるもち米づくりでも、地域とつながる4年生の姿がありました。4・5年生は、6月9日、村内水田において、保護者、地域の皆様とともに田植えを行いました。例年取り組んでいる学校での米づくりを、今年度は取り組む学年を増やし、さらに保護者、地域の皆様参加の新たな形の活動としました。栄村にとって米は主要な農業生産物であり、ブランド米も開発されています。その米づくりを児童、保護者、地域で体験的に学び、有する価値を確かめるとともに、三者のかかわりを深めたいとの願いから取組です。

当日は参加者の楽しげな声が響く田植えとなりました。9月26日には、児童と地域の皆様とで稲刈りを行い、地域の皆様の指導の下、稲刈りに励む児童の姿、楽しげに会話をする児童と地域の皆様の姿が見られました。「地域の人が手伝ってくれてうれしかった」「地域の人が優しく、みんなで助け合っていてよかった」とは児童の声です。地域の皆様からは、「子どもたちのやり方に個性が見られて楽しかった」「子どもたちは頑張っていた。家でなかなかできない体験を学校ですべてできてありがたい」との言葉が聞かれました。



【児童・地域の皆様による稲刈】

地域の皆様との米づくりから願いをもち、地域の伝統食「ちまき」にまつわる活動に取り組む4年生の姿があります。

#### (2) 5年生 栄村温泉調査

5年生は栄村の温泉を調査し、調査内容をパンフレットにまとめ、村内外にアピールしようとして活動しました。

7月25日には、秋山地区の雄川閣、のよさの里、切明温泉の3カ所を訪れ、温泉調査を進めました。苗場山麓ジオパークに属する栄村には、それぞれに個性のある温泉地が目立ちます。5年生はそれら温泉を実際に訪れ、地域の人に話を聞いたり、五感を使って調べたりし、調査内容をパンフレットにまとめています。今回も水質や温度に加え、管理人へ質問をし、温泉の特徴やよさについて学びました。その中で、雄川閣はジビエ（熊肉・猪肉・鹿肉）のしゃぶしゃぶがおすすめなこと、のよさの里は鳥甲山を見ながらキャンプを楽しむことができることなど、温泉や施設ごとの魅力を数多く調べることができました。のよさの里では、ダッチオーブンで焼く鳥の丸焼きがおすすめメニューとのことです。一日の中でいくつかの温泉を訪れることで、それぞれの施設の違いやよさを実感できました。栄村に住んでいても秋山地区を訪れることは少ないようで、自分たちの暮らす栄村のよさを知る調査となりました。



【温泉調査の様子】

11月15日には、温泉をきっかけとして、行橋智彦氏とのコラボで温泉染めに挑戦しました。行橋氏は温泉染めのアーティストで、村内の温泉水と草木を使った染め物に挑戦しました。栄村の温泉で行橋氏と5年生とがつながりました。児童がまとめた大型パンフレットをもとに温泉調査の内容を発表したところ、栄村の温泉を限なく調べたその調査力に感心し、行橋氏はたいへん喜んでくれました。その後、温泉染めに挑戦しました。村内5種類の温泉水と、セイタカ、ブナの葉、ホオノキ、ユキツバキといったこちらも村内の草木を組み合わせて煮沸しながらの染め物でした。温泉水と草木の組み合わせによって色合いが変わるので不思議です。どんな色が出るか、興味津々に観察しながら布を煮込む5年生の姿がありました。授業の終わりには、「ユキツバキと温泉で染めたら、ピンク色になってきれいだった」と活動の楽しさを語る児童がいました。「冬には栄村にスキーに来てください」との児童の呼びかけに、「絶対来るよ。また会いましょう」との行橋氏からの返答がありました。



【温泉染めの様子】

温泉をきっかけとして、地域の人をはじめ様々な人とつながる5年生の姿がありました。

#### (3) 6年生 栄ふるさと太鼓

6年生は栄村小中合同音楽会のオープニングで、和太鼓の演奏を披露しました。

総合的な学習の時間と音楽の時間で、6年生は地域の芸能「栄ふるさと太鼓」を学びました。音楽会の演奏はその成果披露の一環でした。児童は地域の芸能を学び、村在住の指導者の島田美香先生との絆も生まれました。音楽会では、自分たちの太鼓を「栄小太鼓」として、「私たちの音を栄村に響かせよう」のテーマのもと、勇壮な和太鼓の演奏を披露しました。会場の体育館には迫力ある太鼓の音が響き渡りました。指導者の島田先生には、演奏を会場で応援してもらいました。参観の保護者の中にはかつて地域クラブの「栄ふるさと太鼓」に所属していた方もいて、



【音楽会でのふるさと太鼓演奏】

子どもたちの演奏を懐かしく見ていた方も多かったです。

このように、地域の芸能を通して地域の人や伝統芸能とつながる6年生の姿がありました。

#### (4) 3年生 五宝木大根栽培

栄村では村内五宝木地区で限定して栽培した大根を「五宝木大根」とブランド化し流通させています。3年生はその五宝木大根に目を向け、地域の方に教えてもらいながら畑で育てました。収穫後、保護者に味わってもらいたいと参観日に販売活動を行いました。その販売に先立ち、チラシを配って告知をしました。チラシには「ごほくん」「うぎちゃん」「大根くん」のキャラクター兄弟姉妹が描かれていて、つなぐと「ごほうぎ大根」となります。



【五宝木大根販売】

参観日の学校玄関には五宝木大根をPRする3年生、それに耳を傾け、大根を手取る保護者の姿がありました。看板を持って保護者を出迎え、「大根買って下さい！」と元気に呼びかけをした児童でした。購入してもらった保護者には、折り紙や大根料理のレシピがプレゼントされ喜ばれていました。大根は保護者が選んで、3年生が袋に入れて手渡し、互いに「ありがとう」の感謝の言葉のやり取りが見られました。

ある保護者は、「実家のお土産に買いました。地域の農産物を自分たちの力で作ってみるのはすごくいい」と話していました。児童は売り上げで、図書館の本など全校の友達に喜んでもらえるものを購入したいということでした。

地域の特産物栽培、販売で3年生と地域の人や保護者がつながる様子がありました。

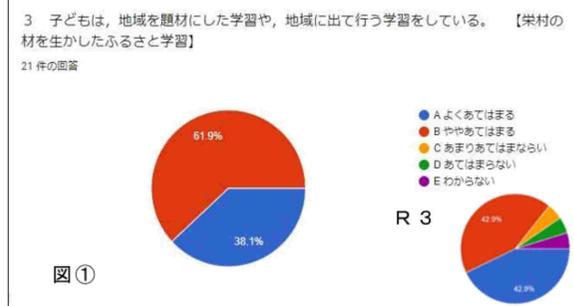
以上のように、総合的な学習の時間を中心としたふるさと学習では、児童の主体的な活動の中で、地域素材から学び、地域の人とかかわりを深める児童の姿がありました。地域の方には積極的に児童の学びを支援していただきました。児童と地域がつながり、多様なかかわりの中での学びが成立したといえます。

#### 4 まとめ

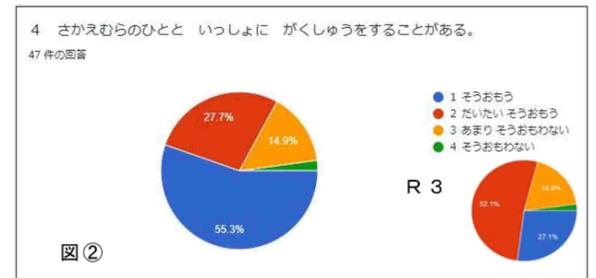
栄村コミュニティスクール小学校部会では、地域とつながり、多様なかかわりの中での学びを生み出そうと、学校と地域の連携・協働を推進してきました。

取組は大きく二つです。一つは、花壇クラブやいっしょに学ぼう、いっしょに遊ぼうにおける児童と地域の皆様の共学び、共遊びの活動です。もう一つは、ふるさと学習を支援し、児童が地域のひと、もの、ことに出会い、かかわったことです。

共学び、共遊びの活動では、児童と地域の皆様が同じ学習者・活動者として、学び・遊びの中で対等・並立の関係でかかわり合う姿がありました。これは、少人数で人間関係が固定化し、多様な見方や考え方に触れにくいといった学校の課題解決に迫る取組であったように思います。児童からはコミュニケーションの喜び、充実を語る言葉が聞かれました。また地域の皆様からも、児童とかかわる喜び、学び合う楽しさについて反応があり、これは学校教育への参画や生涯学習へつながる側面をもつものと考えられます。



ふるさと学習においては、子どもが願いや課題をもって追究し、地域のひと、もの、ことに出会う姿が見られました。支援してくれる地域の人がいて、児童は感謝の気持ちをもちながらかかわりを深めました。地域の皆様には、探究する子どもの姿を喜び、地域素材の価値を伝えたいと積極的にかかわってくれる姿がありました。



前頁図①は今年度の学校評価アンケート「子どもは、地域を題材にした学習や、地域に出て行う学習をしている」への保護者の回答結果です。プラス評価が100パーセントとなっています。本頁図②は、同じく学校評価アンケート「さかえむらのひとと いっしょに がくしゅうをすることがある」の児童の回答結果です。「そうおもう」が昨年度の27パーセントから55パーセントへと大きく増えています。保護者、児童共に学校と地域の連携・協働について評価を高めており、今年度の取組の成果でしょう。

今後の課題としては、村CSの活動を継続、組織化していくこと、ふるさと学習においては学んだことを校外へ発信することであると考えています。

大きな方向性として、村CSについては、今年度の活動をもとに、地域人材を組織化していくことを考えていきたいです。大切にしたいことは、依頼する、されるといった関係を超え、持続可能で並列・対等な関係性の組織をつくっていくことです。対話を重視しながら進めていきたいと考えています。ふるさと学習は「探究的な学習」ととらえ、「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」→「課題の設定」・・・と連続的な追究過程となるように支援し、発信につなげられるとよいと思われまます。支援の視点として、地域素材を教材化することに加え、児童につける力を明確化、目的化していくことが大切になってきます。学校との連携を深めていきたいです。

今年度の取組から、CSを中心として、共学び、共遊び等で学校と地域が連携・協働を深めたり、ふるさと学習を推進していったりすることで、児童は多様なかかわりの中で学ぶことができ、地域の皆様は学校教育への参画の意識や生涯学習への意欲を高められるように思われます。

#### おわりに

学校と村CSの連携・協働の取組において、児童には地域の皆様や地域素材とのかかわりや出会いが生まれました。取組を振り返ると、児童と地域の皆様に名前呼び合う関係が生まれるなど、物理的・心理的に距離が縮まっている様子があります。また、村CS小学校部会を中心に、学校職員と地域の皆様のかかわりも深まり、コミュニケーションを取りながら「こんなことをやってみたい」「あんなことができそうだな」といった会話が交わされるようになりました。児童と地域の皆様、学校と地域に相手の顔が見えるコミュニケーションの形ができてきているように思われます。

本校の学校と地域の連携・協働は、かかわる人の理念の共有、互いの尊重を基調に、並列・対等な関係性をもって取組が進められました。新たに発足した栄村コミュニティスクール小学校部会は、今年度の活動を基盤に、継続・発展させながら、持続的な取組を進めていくことが求められるでしょう。学校と地域との対話により、かかわる人の思いを共有しながら前進していきたいと考えています。